

2020 年度事業報告

特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン

2020 年度は、なんといってもコロナ禍の影響を大きく受けた年度であった。年明けから広がっていったコロナウィルスの感染と、感染対策として出された緊急事態宣言、殊に全国一斉に行われた休校が、子育て世帯の暮らし方、家計を揺さぶった。特に低学年児童を持つ一人親家庭にとっては、休校はそのまま失業に繋がった。事態が進むにつれ、経済的困窮は二人親世帯にも及んだ。

そのような中、フードバンクに大きな期待が寄せられた。WAM 助成事業として進めた LINE 公式アカウントを使って要支援者へアプローチし、さまざまな形の食料支援を行った。また、子育て支援、困窮者支援のための助成金が多く出され、ライフアゲインとして取得し、活動を充実拡大した。

また、支援者からの寄付も全国各地、海外からも寄せられた。「子どもたちのために」というメッセージと共にライフアゲインに託された資金によって、ミッションの実現を推進することができた。そして、ビジョン「すべての子どもたちが大切にされる社会」の実現に向けて、着実な一歩を進めることができた年度であった。

- 一、食品ロスと子どもの貧困—この2つの社会課題を改善するアプローチを SDG s というフレームで捉え、広報をともなったファンレイジングを強化していく。
➡SDG s を意識した企業からのアプローチが増え、フードドライブはじめ様々な活動への参加が広がった。SDG s を広報するラッピングを行った寄付つき自販機を増やし、冊子『参加から学ぶSDG s』、『企業協働の提案資料』を制作した。
- 二、子ども未来笑顔プロジェクト（子どもの貧困及び負の連鎖を断ち切るための包括的支援体制の構築）の本格始動を 2023 年度から開始する計画だが、それに向けた準備を進めていく。
➡子ども未来笑顔プロジェクトのアドバイザーに 8 名の方に就任してもらい、それぞれにヒアリングを行い、冊子にまとめた。このヒアリング冊子の内容が、今後の子ども未来笑顔プロジェクトのベースとなっていく。
- 三、組織として成長していくための職員やボランティアの資質向上と、支援者の発掘及びフォローのルーティン化の実現
➡2020 年度中に 3 回の研修（食品衛生について、情報管理について、認定 NPO 法人と寄付の税制優遇措置について）を行い、役職員、ボランティアが参加し学んだ。

また、約 3 年間準備してきた「認定 NPO 法人」申請を行い、計画通り 2020 年度内（2021 年 3 月 29 日）に認定 NPO 法人となることができた。これを機に、さらに組織管理の精度を上げ、より市民に開かれ、支持される法人として、信頼と期待に応えていかなければならない。

2019 年度 7 月より普及啓発事業の一環としてスタートした「もがるかキッチン」は、2020 年度 10 月をもって終了した。そして、かねてより検討してきた放課後等デイサービス事業を、別途法人（一般社団法人ライフアゲイン）を立ち上げて、2021 年 4 月 1 日より開始することができた。

北九州市子ども家庭局、保健福祉局、環境局との連携を強化し、子育て世帯支援、困窮者支援、食品ロス削減などの課題解決、SDG s への貢献など、着実に進展している。つながり支援チームは、いのちをつなぐネットワークとの連携により、的確で有機的な支援につなぐことができている。



【フードバンク事業】

	2019 年度実績	2020 年度計画	2020 年度実績
活動費	12,971,727 円	20,308,600 円	25,115,330 円
食品取扱量	48.8 トン	100 トン	90.5 トン
食品提供企業数	142 社・団体	200 社・団体	158 社
食品受け取り施設	111 箇所	120 箇所	121 箇所
子育て世帯食料支援数	43 世帯	60 世帯	91 世帯
子育て世帯支援総数	135 世帯	500 世帯	218 世帯
緊急食料支援件数	30 世帯	45 世帯	64 世帯

■フードバンクの基盤整備と機能強化

食品ロスを削減し、有効な資源として活かしていくフードバンク事業は、食品ロス削減法施行により地方行政施策や企業の事業も変化している。また、さまざまな助成金などにより全国的に基盤強化されている。ライフアゲインも、福岡県フードバンク協議会や近隣のフードバンクなどと連携して、必要とされる活動を行った。

- ❖ 2019年度には3温度帯（常温・冷蔵・冷凍）での管理ができ、多量多種の食品の受け入れが可能となったが、2020年度には赤い羽根助成金によってプレハブ型冷凍庫を設置できた。
- ❖ コロナ禍で急遽寄贈品が増えたために、倉庫を増やした。第二倉庫は、大英産業株式会社より無償提供をいただいている。第三倉庫は、事務所と同じ八幡中央区商店街の中にある空き店舗を格安に提供いただいた。また、引き続きクラレイの冷凍庫の定額利用、エフコープ西港支所の倉庫の無償提供も受けることができた。
- ❖ WAM 助成金、エフコープ環境助成金などにより、平台車、カゴ車、名前入り折り畳みコンテナなどを補充した。
- ❖ 赤い羽根助成金により、長期保存用の圧着式密封機、密封袋などを準備できた。これにより、お米などの長期保存が可能になった。
- ❖ 倉庫管理について関係者で会議をもち、寄贈された食品の適切な管理について検討した。



■食品寄贈企業・団体

福岡県フードバンク協議会の設立によって、食品寄贈企業の開拓、合意書の窓口の一本化が進んだ。しかし、支援システムの現場運用に遅れがでている。

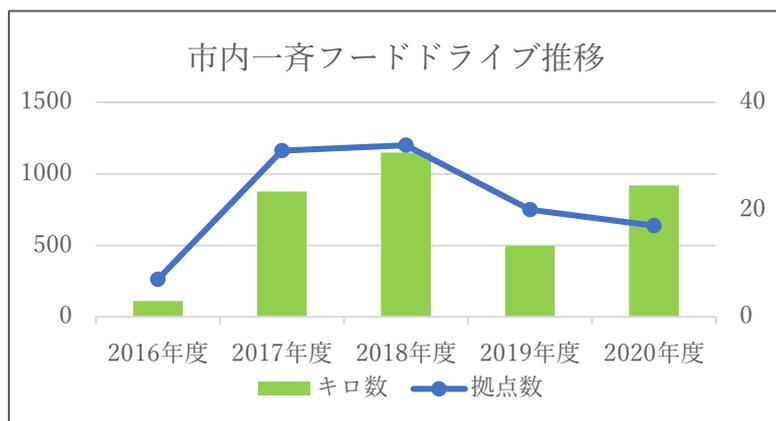
- ❖ 福岡県フードバンク協議会、全国フードバンク推進協議会、むすびえなどを通しての、寄贈品配分が進んだ。
- ❖ コロナ禍により、学校給食協会などから給食関係食品、スターフライヤーや売店取り扱い食品、観光地の土産物などが、寄贈された。
- ❖ フードバンクの存在が知られ、さまざまな企業、組織から防災用非常食の入れ替え時に、寄贈が増えた。
- ❖ お寺おやつクラブとして、あるいは各寺として継続的に食品寄贈が続いている。
- ❖ お米については、企業より年間3トンが継続的に寄贈を受けられることになった。

■フードドライブ

フードドライブは食料調達だけではなく、広報の機会として大きな役割を果たしている。食品ロス削減法が制定され、環境局とは食品ロス削減やフードドライブでさらに連携が強まった。

また、SDGsの取組みとして、企業からの自主的な協力も増えている。

- ❖ 市民センター等で行われている市内一斉フードドライブキャンペーンを2回行った。（北小倉／松ヶ江北／枝光市民センター、環境ミュージアム、西南女学院大学、エフコープ（北九州市6店舗）
- ❖ イオン3店舗、アルクでは、毎月1週間開催された。



市内一斉フードドライブ推移		
	拠点数	キロ数
2016年度	7	110
2017年度	31	876
2018年度	32	1150
2019年度	20	498
2020年度	17	919

- ❖ ギラヴァンツ北九州の協力を得て、事前のチラシ配布、試合当日のフードドライブを行った。
- ❖ 第一生命株式会社、九州電力などでも、自主的なフードドライブが行われ、食品が寄贈された。
- ❖ エフコープ環境助成金によって『フードドライブハンドブック』を作成し、配布して自主的フードドライブの実施を呼びかけた。同じく、フードドライブに必要な用具の無料貸し出しができるよう揃えた。

■倉庫の確保

- ❖ コロナ感染症の拡大のため緊急事態となり、学校給食や観光業関連などの食材が収集したために、事務所1階の倉庫（第一倉庫）だけでは手狭となり、新たな倉庫が必要となったところ、大英産業株式会社の倉庫を無償で借りることができた。（第二倉庫）
- ❖ 冬休みお腹いっぱい大作戦の用意のために倉庫が必要となり、アーケード内の空き店舗を借りることができた。（第三倉庫）

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
フードバンク事業	食品関連業者及び個人から余剰食料を回収し、社会福祉施設及び生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体及び生活困窮者個人に提供する。 ※実績数…90.5トン	通年	全国	24名	121施設 91世帯	7,724千円
	食品提供企業を開拓するために、福岡県フードバンク協議会、全国フードバンク推進協議会、全国子ども食堂支援センター“むすびえ”や北九州市と協働し企業開拓する。 ※実績数…158社（前年より12社増）	通年		3名		
	フードドライブを実施し、提供された食品を社会福祉施設及び生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体及び生活困窮者個人に提供する。 ・市内一斉フードドライブ ・企業などによる自主的なフードドライブ	7月 1月 随時	市内	10名		

【ファミリーサポート事業】

ファミリーサポート事業は、子ども食堂の普及と体験を重視した校外学習（子ども会活動）、学習支援事業などで構成している。

■子ども食堂

コロナウイルス感染防止のため緊急事態宣言が出され、子ども食堂が開催できない状況が続いた。しかし、活動内容を食料配布（フードパントリー）や弁当配布に切り換えて子育て支援を続けた。ライフアゲインは、地域の子ども達を地域全体で育てていく場として、また、各世代をつないでいく地域の拠点として、全市校区に1ヶ所の子ども食堂が運営されるよう、サポートしていこうとしている。



- ❖ 尾倉っ子ホームは、尾倉市民センターが使用できる期間、開催した。また、子ども食堂が開催できない期間は、お弁当配布などを行った。
- ❖ コロナウイルス対策として、「飛沫防止シールド」を有菌製作所と協働して製作した（むすびえ助成金を活用）。子ども食堂開催時、学習塾開催時には、この飛沫シールドを使用した。他の助成金を得て、全国の子ども食堂に無料で配布しようとしたが、成功しなかった。
- ❖ 市内子ども食堂普及活動の一環として、「子ども食堂応援店」（ランチ・フォー・チルドレン）の旗も作成した。そして、この活動は、子ども食堂ネットワーク北九州と連携していくこととなった。

■もがるかキッズクラブ

開かれた子ども会活動として、自然体験や仕事体験などの校外活動を行っている。子ども食堂や食料支援世帯の子どもを中心に声かけしているが、基本はだれでも参加できる。2020年度は、“天縁ぼう”（宗像市武丸）、大英産業のご協力、ノエビアグリーン財団、つなぐいのち基金などの助成金を得て進めた。コロナの影響で、スタッフだけの活動となることもあったが、可能な範囲で活動し、参加した子どもたちの笑顔が溢れた。（開催回数：8回 参加延べ人数：199名）

- ❖ 5月：桃の袋掛け体験（宗像市武丸） 11名
- ❖ 6月：田植え体験（宗像市武丸） 12名
- ❖ 8月：帆柱デイキャンプ&皿倉山夜景ウォッチング 23名
- ❖ 9月：栗拾い体験（宗像市武丸） 15名
- ❖ 10月：稲刈り体験（宗像市武丸） 30名
- ❖ 11月：脱穀体験（宗像市武丸） 10名
- ❖ 12月：餅つき&冒険村づくり（宗像市武丸） 49名
- ❖ 3月：パン焼き体験（八幡東区） 49名



■学習支援事業

これまでライフアゲインの事業であった「もがるか算数教室・英語教室」だけでなく、2020年度より中学生を対象とした「オンリーワン塾」もライフアゲインの事業として取り組んだ。

学習支援事業においてもコロナの影響を受け、オンライン授業を行うことも多かった。一方、オンラインということで、ボランティア講師は、北九州市からだけでなく遠隔地からも協力を得ることができた。特に、コロナのために任地へ出発できなくなった JICA（ジャイカ海外協力隊）の皆さんの参加があった。



■フードパントリー

コロナ感染症のために子ども食堂の運営ができなくなり、多くの子ども食堂でフードパントリー（食品配布）に切り替えたが、ライフアゲインでもお弁当配布やフードパントリーを行った。この活動に対して、各種の補助金、助成金が提供され、活用した。

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
ファミリーサポート事業	尾倉市民センターで開設している子ども食堂「尾倉っ子ホーム」の運営。 月2回開催 ※コロナの影響で、開催できないこともあった。 ・弁当配布 5/27、6/10、6/24、7/8、7/22、8/12、8/26、9/9、10/14 ・子ども食堂開催 9/23、10/28、11/11、11/25、12/9、12/23、1/13、2/24、3/10、3/24	通年	皿倉小学校区	40名	903名	5,737千円
	学習支援（小学3～6年生） ・もがるか教室 月/英会話、木/算数 ・オンリーワン塾（中学生）	毎週月・木 月・火・木	尾倉中・中央中学校区	9名	8名 17名	

もがるかキッズクラブ 子ども達を対象に自然体験などを企画・主催。 ・桃の袋掛け体験（宗像市武丸） ・田植え体験（宗像市武丸） ・帆柱デイキャンプ&皿倉山夜景ウォッチング（八幡東区） ・栗拾い体験（宗像市武丸） ・稲刈り体験（宗像市武丸） ・脱穀体験（宗像市武丸） ・餅つき&冒険村づくり（宗像市武丸） ・パン焼き体験（八幡東区）	5/9 6/27 8/10 9/27 10/17 11/8 12/12 3/20	宗像市 武丸を 中心に 市内	5名 7名 13名 7名 8名 7名 14名 14名	11名 12名 23名 15名 30名 10名 49名 49名
フードパントリー ・市内全域、LINE 登録者を対象に 8 拠点で食品配布（コロナ対策緊急食料支援） ・ドライブスルー形式フードパントリー ・今町小学校校区 ・皿倉小学校校区 7/18、8/1、8/15、8/29、11/、1/27、3/24	4～5 月 6/13 6月	市内	20名	326 世帯 367 世帯 22 世帯 387 世帯
長期休み前の食料配布 ・夏休みお腹いっぱい大作戦 サンキュードラッグ店舗を受取り拠点として配布 ・冬休みお腹いっぱい大作戦 託送で	7月25 日～31 日 12月 17日	市内	20名	321 世帯 313 世帯

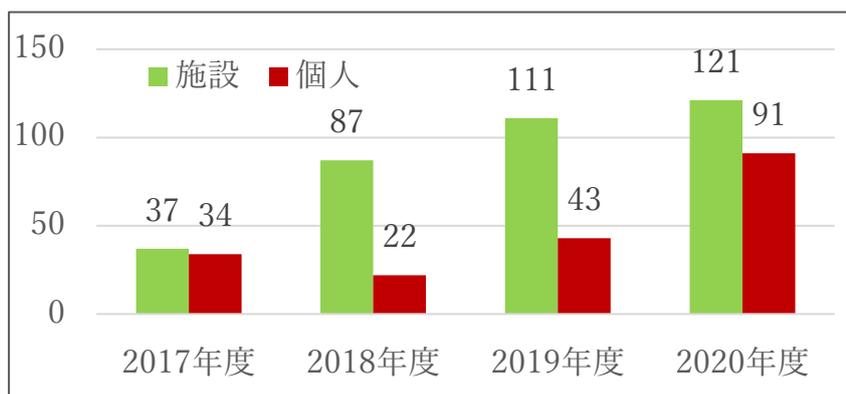
【食のセーフティネット事業】

いのちをつなぐネットワークなどと連携して子育て世帯への継続的な食料支援、全般的な緊急食料支援を行っている。食料支援だけでなくつながり支援チームによる要支援者、要支援世帯へのヒアリングを行っている。また、食料支援が終了した子育て世帯にたいしても継続的に寄り添い、傾聴、情報提供、他への連携などを行っている。要支援者に対する窓口であり、ライフアゲインが目指している包括的支援は、この事業から展開していくものとする。

この事業を継続していくためには、つながり支援チームの負担の軽減と人員・人材の増強が不可欠である。ポスターやチラシを作成・配布して、メンバーを広く募集することにした。2020 年度には、つながり支援のメンバーに、要支援者対応のための携帯電話を貸与した。

2020 年度は、WAM 助成事業として取り組んだ LINE 公式アカウントに登録していただく方法でアウトリーチを強めた。

食料支援団体・個人支援の推移



定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
食のセーフティネット事業	食料支援を行っている子育て要支援家庭に対して、面談あるいは訪問をすることでニーズを把握し、実情にあった支援につないでいる	随時	市内	6名	子育て要支援 約100世帯	846千円
	継続支援を行っている世帯に対してクリスマスカードを書いて渡す取り組みを行った。 チャリティサンタと連携して、クリスマスのサンタ訪問の取り組みを行った。	12月		6名		
	株式会社サンキョードラッグの協力により受け取り拠点としての活動が	毎月 10日～ 20日	サンキョードラッグ 7店舗	4名		
	行政との連携を進める。いのちをつなぐネットワーク、子ども家庭相談コーナーとの連携を強化し、スムーズな支援が、実施できた。	通年	市内	5名		

【普及啓発事業】

ライフアゲインのミッション“生まれ育った環境のために、満たされた食事ができない、十分な教育を受けられない、寂しい思いをしている子どもを北九州市からゼロにする”を果たし、全ての子どもたちが大切にされる社会を実現するには、私たちの働きだけでは不可能である。私たちがどのような社会を目指すのかを伝え、それぞれがどのような関りをしていくか、さまざま形の普及啓発活動は、非常に重要であり、力を注いだ。

■ 年次報告書、ニュースレターの発行

- ❖ ライフアゲインとして初めての年次報告書「サンクスレポート2019」を作成し、配布した。(8月)
- ❖ ニュースレターを2回発行する計画をたてた。12号は12月発行。13号は、認定NPO法人の決定を待って2021年4月の発行となった。



■ 2020 子育てシンポジウムの開催

10月31日、男女共同参画センター・ムーブ大ホールで、2020 子育てシンポジウム「かけがえのないこのいのちをまっすぐに」を行った。コロナ感染症の不安もあり、感染防止対策をしながらの開催で、約80人の参加者であった。基調講演、内田美智子さん、シンポジウムは原田理事長、堀井智帆さん、内田美智子さんで行われた。

■ 地域に開かれた学びの場の開設

WAM助成金により、事務所の3・4階を賃貸借し、研修や学習のために使いやすいスペースとすることができた。SDGs関連の図書をそろえ、貸出しできるようにした。今後、この場を活用していきたい。

■ さまざまな研修活動

2020年度は、「食品の衛生管理について」(講師：エフコープ商品検査センター職員)、「個人情報保護」(講師：知名弁護士)、「認定NPO法人と税制優遇措置について」(講師：相浦税理士)の研修を行った。



■支援型自動販売機

これまでコカ・コーラ西日本との連携で寄付付き自販機の取組みを広げてきたが、今年度は、第一生命保険株式会社西営業支社に、ネオス株式会社の自販機を設置してもらった。

■もがるかキッチン

2019年度7月より、地域に向けたライフアゲインからの情報発信の場としてもがるかキッチンをライフアゲインの自主事業としたが、2020年10月に事業を終了し、一般社団法人ライフアゲインへ発展的解消をした。

一般社団法人ライフアゲインは、放課後等デイサービス事業所「プレシャス ONE」を2021年4月1日よりスタートさせた。(八幡中央区商店街内)



定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
普及啓発事業	講演会、講師派遣	10回	九州内	2名	事業に関心のある方々 約500名	3,660千円
	YouTubeによるパートナー説明会	2月～3月	web	3名	食品受取施設 121箇所	(もがるかキッチン 1,387千円を含む)
	もがるかキッチン	4月～10月	市内	10名	来店者	
	イオン黄色いレシート ※コロナのため店舗での活動は行わなかった。	※		なし	不特定多数	
	スタディツアー	10月 11月		7名	54名	
	カレー・フォー・チルドレン ランチ・フォー・チルドレン	通年		3名	市内子ども食堂関係者 32団体	
	寄付つき自動販売機 ※実績数…14台	年中	県内	2名	不特定多数	
	『フードドライブハンドブック』発行	11月		3名	1000名	
	2020 子育てシンポジウム実施	10月		17名	77名	
	企業協働の提案資料冊子	2月		3名	300名	
	『参加から学ぶSDGs』発行	3月		全国	5名	2000名
	『子ども未来笑顔プロジェクト』アドバイザーヒアリングレポート2020	3月			12名	100名
	年次報告書「サンクスレポート2019」発行	8月			5名	2000名
	ニューズレター発行 12号発行	12月	5名		2000名	
	つなぐ書店(古本による寄付)	8月～4月	3名		不特定多数	

	WAM成果報告書	3月		4名	500名	
	ホームページ、SNS	年中	web	4名	不特定多数	

<2020年度発行したさまざまな冊子>



【食の災害支援事業】

定款には、食の災害支援事業を挙げているが、今期の取組みはなかった。

8月の九州豪雨で被害を受けた大牟田市の支援として、役職員からの寄付に合わせて、ライフアゲインとして北九州ESD協議会を通して2万円の寄付を行った。